



発行所 立命館大学新聞社
発行人 石井 優輝
〒603-8577 京都市北区等持院北町
56-1 立命館大学学生会館 BOX316
075-465-8253 (内線 2160)



www.ritsumeikanunivpress.com
立命館大学新聞社
TEL 075-465-8253
MAIL info@ritsumeikanunivpress.com
Twitter @Rits_Press
Facebook www.facebook.com/ritspress/

10月号

本号の紙面

榮枝 阪神から4位指名... 1面
カヌー 男子学生日本一... 1面
BKC 緑地化はじまる... 2面
キャンパス喫煙所閉鎖... 2面

ドラフト会議 榮枝裕貴
阪神から4位指名

プロ野球ドラフト会議が10月26日に行われ、立命館大の榮枝裕貴(文4)が阪神タイガースから4位指名された。...



指名されて笑顔を見せる榮枝

本学硬式野球部の後藤昇監督は指名について「高い評価をいただくことができ、彼の努力の結果だ」と語った。...

全日本学生カヌー選手権が9月19日〜22日、木場潟カヌー競技場(石川県小松市)で開催された。...



3年連続の総合優勝を果たした本学カヌー一部男子

人3種目まで出場可能であった個人種目は、1人1種目のみ出場可能という形となり、部員数が少ない大勢が総合優勝を狙うには難しい状況となった。...

しかし、そのなかでも本学カヌー部は健闘を見せる。カナディアンシングルの200mでは、レース後半に力強いパドルさばきで抜け出した志田駿太郎(スポ健4)が優勝。...

秋季卒業式・入学式をWeb配信
コロナ禍でも変わらぬ学生への思い

9月22日に秋季立命館大学卒業式・大学院学位授与式、25日に秋季立命館大学大学院入学式の模様を本学公式YouTubeチャンネルにて公開された。...

動画には、字幕表示や写真のスライドショーなど、事前収録の利点を生かした工夫が見られた。...

今年度の春季卒業式・入学式は感染状況を鑑みて中止となった。これを踏まえ、秋季の式典形態について「部分的であっても対面でお祝いする場を設定したいと考えてきた。...

今年度の卒業式・入学式に「今後、森岡部長は「今後は、学友会との話し合いの場をはじめ、アンケート実施も検討している。...



感染対策のもと行われた入学式録画の様子

「10連覇できるチームの土台を作ることを今年の目標としていた」と語る寺岡新主将の新員達哉(食マネ3)を中心に、まずは来年の同大会で部として初の4連覇を目指す。(石渡)

秋学期が始まって1カ月。秋、服装に迷う季節だ。もつかの間、冬の足音がそこまで迫っている。慌てて冬服を引っ張り出した。半袖は来年末まで休んでもらおう。...

秋学期が始まって1カ月。秋、服装に迷う季節だ。もつかの間、冬の足音がそこまで迫っている。慌てて冬服を引っ張り出した。半袖は来年末まで休んでもらおう。...

たくさんの人に伝えたい感動や興奮。共有したい情報や想い。それらを表現できるのはたった一枚の紙の上。限られた範囲で何が出来るか。記事の構成、写真のアンクル、紙面のデザイン、見出しの付け方。伝えたいから、全てにこだわる。こだわるから、良いものが生まれる。私たちにしかできないことが、ここにある。

立命館大学新聞社 RITSUMEIKAN UNIV PRESS

www.ritsumeikanunivpress.com
075-465-8253
info@ritsumeikanunivpress.com
@Rits_Press
www.facebook.com/ritspress/

京都・衣笠：学生会館 3F BOX316
滋賀・BKC：セントラルアーク 4F アクト・オフィス内
大阪・OIC：A棟北ウィング 3F Student Lounge 内

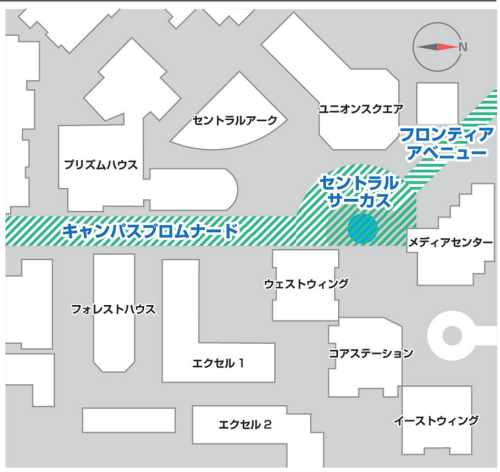
キャンパスプロムナード緑地化 デザイン案作りに学生関わる



キャンパスプロムナードの完成イメージ図

びわこ・くさつキャンパス(BKC)のセントラルサーカスから第1グラウンドまでを南北に貫くキャンパスプロムナードは緑地化に向け工事が行われている。10月15日には第1期工事が完了、第3期工事が完了する2022年3月に完全にリニューアルを目指す。今回の工事はキャンパス内の他の箇所とともに、BKCキャンパスマスタープランで定められた、緑地化事業の一環として行われている。

緑地化によってキャンパスを周りの環境と一体化した自然あふれるものとする。学生が気持ちよく歩けるような動線をつくり、屋外で集える場も作ることを目的としている。工事では植樹されているケヤキを活かしながら、より緑を感じられるように土壌の拡張、低木や植物の植え付けを行い、新たに水路を作る。水路の水にはキャンパスの地下水が利用される。これによりBKCに今までなかった水景物がつくられ、雰囲気が大きく変わることとなる。さらにベンチなどを新たに設置することで学生に憩いの場を提供する。



BKCの地図
新たに水路やベンチがつけられる予定

新たなキャンパスプロムナード作りは、数年掛かりで計画され、それには学生も関わった。良好なキャンパス環境を実現するために、学生と職員が共に考えるワークショップが開催された。理工学部の建築を専攻する

対面授業が再開されてもなお、課外自主活動は、再開条件の緩和や施設利用の再開などを大学側から自らが要請されている。大学側との面談などを経て、再開を断念し、一部に限られている。学友会はより多くの団体が活動を再開できるように、尽力してほしい。

社説 学友会は課外活動再開へ主導せよ

友会員への公開を進める必要がある。現状、常任委員会は団体の活動状況や協議状況を見てはあまり議論されておらず、課外活動に関する相談や、情報提供を呼びかけるなどの行動も求めた。学友会が活動の二丁目一番地に掲げる課外活動の自主性を重んじる

友会員への公開を進める必要がある。現状、常任委員会は団体の活動状況や協議状況を見てはあまり議論されておらず、課外活動に関する相談や、情報提供を呼びかけるなどの行動も求めた。学友会が活動の二丁目一番地に掲げる課外活動の自主性を重んじる

自ら探すことも必要だ。学友会員3万2000人を背負った存在として、学生一人ひとりの意見を聴く姿勢をもつてほしい。感染拡大防止のために、大学側が課外活動に対して厳しい条件を課すことは理解できる。しかし、学生はこの状況に満足しているのだろうか。「全構成員自治」を掲げる本学は学生の意見を大学へ伝えやすい環境が整っている。常任委員会は無条件に大学側の対応を受け入れるのではなく、真摯に学生の声を聴き、大学との協議に臨んでほしい。

立同戦 1勝1敗で優勝逃す

10月24・25日、阪神甲子園球場(兵庫県西宮市)において、関西学生野球連盟秋季リーグ最終節、伝統の立同戦が行われた。立命館大は初戦を1対2で落とし、2戦目は3対1で勝利し、秋季リーグ戦を2位で終えた。



最終戦で9回に登板する有村

立同戦はエース、有村大誠(文4)が登板。直球とスライダーを武器に、同社打線を7回まで1失点に抑える。好投に恵まれたが、8番福武修(法4)の適時打のみで沈黙した。有村も8回に同

志社打線につかまり、1対2で無念の惜敗となった。絶対には負けない2戦目は1回裏、一死2、3塁のチャンスを作り、5番柴枝裕貴(文4)の右前適時打で2点を先制した。3回裏には三宅浩史郎(産社4)のソロ本塁打が飛び出し、リードを3点に広げる。投手陣は相手打線を1点に抑え、最終戦を勝利で飾った。結果、秋季リーグを7勝3敗の2位で終えて、悔しさが残った。主将の橋本和樹(産社4)は「悔しい結果となったが、陰で応援してくれる存在があったことが」とまわりの人への感謝を見せ、そして後輩たちに優勝への思いを託した。

学生がSDGsを発信した1週間
Sustainable Week 2020が開催



ライブ配信企画に参加する三日月知事

持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて課題解決に取り組む学生イベント「Sustainable Week 2020」が、10月5・10日に開催された。今年のテーマは「Imagine the Future」。学生からは、県内には素敵な活動を行っている企業があることを発見できたという声や、三日月知事は「滋賀県に根付く思いやりの心や環境を大事にする考え方を発信し、今後も色々な取り組みを実践していきたい」と語った。

また建築における持続可能な性について、トリアの事例をもとに議論する企画が7日に行われた。トリアは2014年4月、BKCにオーブンし、主に理工学部の学生が利用している建物。構造から設備、建築材料に至るまで環境に配慮した設計となっており、建物全体で建築・環境に関する実践的な研究を行っている。設計者の菊池浩輔さんは「利用者の意見は貴重だが、環境実験棟としての良いところを生かすためには「ないか」と振り返った。

タバコ、やめるなら今 衣笠・喫煙所 無期限閉鎖

本学では、9月25日からキャンパス内の特定屋外喫煙所の無期限閉鎖が行われている。本学は2013年4月より全キャンパスを全面禁煙としており、その方向性については議論が重ねられてきた。閉鎖のきっかけとなったのは、新型コロナウイルスの感染拡大だ。対面授業再開に伴い、大学側は各教室の十分な換気や人と距離をとることを呼び掛けている。

しかし、換気のために窓を開けたとき、外気と共に喫煙所からの副流煙が流入してしまう恐れがあった。また、喫煙所は三密になり、感染拡大のリスクが高まっている。本学では、新型コロナウイルス対策を最優先させることが賢明であると考え、この決断に至った。



閉鎖される以前の特定屋外喫煙所の様子

課長の太場茂生さんは「コロナ禍においてこそ、卒業生に喫煙を促すべきだと切に思う。どこかのタイミングでやめなければ、コロナの危険がなくなると語る。学生に対しては「卒業生も喫煙そのものは自身の健康面において悪影響を及ぼすものだ。キャンパスの全面禁煙化がゴールではなく、喫煙者一人ひとりの卒業が本場のゴールだ」と訴えた。(檜垣)